



















































「変態ご主人様、
突然、下半身全裸で出てきて
何がしたいんですか？」

そんな小さな租チンを
見せつけられても困ります」



「これから私は用事があるので
変態ご主人様の相手をしている
暇はないんですが…」

くっ
くっ





「またこんなに大きくして
どうするんですか？」

「はい？ヌイて欲しい？
仕方ないですね・・・」



「なんですかこのみっともない粗チンは
勃起してもいつまでも皮を被って……」
「早速、先っぽから汁がタシてきましたよ
だらしない粗チンですね」

ニギ

ニギ



「皮を剥きますよ?」

「こんなに皮が余っていると
恥垢も溜まって不潔なんで
手術で取ってしまえばいいのですが」

ギョッ





「はいっ！これでいいですか？」

「準備ができたんでこのまま
射精するまでシコシコしますよ？」



「まったく変態主人の性処理は
拒否できない契約だから
仕方ないですけど」
「こんなこと毎回やらされたら
仕事になりません」



「んっ…服や体が汚れると困るので
出すときは言っで…」





「おやっ!」

ゴッ
ゴッ
!!

「なんで言ったそばから
射精しているんですか？」

「これから外に行く用事があったのに
これでは出かけられないですよ」

ポ
ン
ポ
ン
ポ
ン



「もう、顔も服もベトベト…
着替えないと…」
「なにスッキリした顔を
しているんですか！」



「変態ご主人様、まだですか？」

「んっ？今度は服が汚れると
困るなら全裸になれって？」

「命令なら脱ぎますけど・・・」

